

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	12-138	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Evidence for a genetic component for substance dependence in Native Americans. アメリカ原住民の薬物乱用者における遺伝素因の根拠		
執筆者		
Ehlers CL, Gizer IR.		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2013 Feb 1;170(2):154-64. Review.		
キーワード		
遺伝素因、薬物乱用、アメリカ先住民		
要旨		
目的： 薬物乱用は、部族間において薬物の種類やアルコールに差はあるが、アメリカ先住民が直面する重要な健康問題のひとつである。一般住民を対象とした研究において薬物依存症には遺伝素因が大きな役割を果たしていることが示されてきた（約 50%が遺伝的影響とされている）。しかしながらアメリカ先住民において、遺伝が薬物依存に及ぼす影響の検討はほとんどない。		
方法： アメリカ先住民の遺伝素因が薬物依存の病態生理に及ぼす影響を系統的にレビューした。これらには遺伝率、連鎖解析 (linkage analysis)、候補遺伝子に関する研究を含む。		
結果： アルコール及びその他の薬物依存が遺伝要因である科学的根拠を見出した。連鎖解析により次のことが明らかにされた。すなわち、薬物依存リスクや関連する表現型 (body mass index、薬物耐性、脳波パターン、外在化傾向) に影響を及ぼす遺伝子群がいくつかの染色体に存在しており、これらは他民族と同様であった。薬物依存と BMI との遺伝子座が重なっていることは、消費障害に共通した遺伝要因の存在を示唆する。アルコール代謝酵素をコードした遺伝子の研究からは、アメリカ先住民に特異的な変異は見つからなかったが、他民族にみられる予防的遺伝子変異はアメリカ先住民ではほとんど見つからなかった。アメリカ先住民にみられる薬物依存関連のその他の候補遺伝子としては OPRM1, CRN1, COMT, GABRA2, MAOA, HTR3-B があげられる。		
結論： アメリカ先住民の薬物依存症には遺伝素因が重要な役割を果たしており、その影響の程度は他民族での報告とほぼ同程度であった。いくつかの部族に薬物依存症が高頻度に認められるのは、予防的遺伝素因の欠如 (代謝酵素変異)、遺伝素因が関係する危険因子 (外在化傾向、消費衝動、薬物感受性・耐性) 及び、キーとなる環境要因 (トラウマ経験、若年からの薬物使用、困難な生活環境) が組み合わさっているためであろう。		